

各地の自然災害で被災された方々、戦禍の中にある方々に、心からお見舞い申し上げます。
神様の慰めと助けがありますように、お祈りしております。

8/25(日)15:00～ 森繁 昇サマーコンサート Vol.22 入場無料

今年も森繁昇さんがやってきます。楽しいお話と歌は何度聞いても心が温まります。



【プロフィール】
1950年 山口県に生まれる。
1973年 米国に渡り、イエス・キリストに出会う。翌年、クリスチャンになる。
1984年 ファーストアルバム「スーン(SOON)」を制作。音楽を通してキリストの愛と救いを伝え始める。
1986年 ハワイに拠点を移す。
年間3～5回来日し、教会、道の駅、公園、通りなどで、ゴスペル(良い知らせ)を通して、永遠の希望を歌いながら各地を旅している。

ライブ配信も行います。
(教会ホームページから
ご覧いただけます。)

「もし本当なら知りたい」そう思った時、ゴスペルが私を変えた。

ある日、私は心にひとつの問いかけをしました。「万物の造り主は存在するのだろうか？」それまでは、「造り主の神がいるなんて、おとぎ話さ。男一匹死ぬ気になりやできないことはないし、自分に正直に生きればいいのさ」と思っていました。

ふと私が万物の造り主がいなくて信じている根拠は、どこにあるのか考えてみた時、幼い頃から誰も造り主がいるとは教えてくれなかった事、また、皆もそれを知らなかった事、それだけの理由で「いない」と決めつけていた事に気づきました。

造り主の存在する可能性がほんの少しでもある、と認めた私は万物の造り主がいるなら知りたい、と強く思いはじめました。その方は、私を知り尽くしているに違いない。その方は私の心の中を見ておられるけれど、私は人の目を気にして生きていました。

自分の一番近い親兄弟さえ、時として愛せなかった私。悪いと知っている事でも自分の都合により、平気でやっていた醜い私。私はその時、自分の本質をはっきりと見たのです。

しかし、そんな私でも、愛して赦してくださる神が本当におられるなら知りたい、と心を開いたとき、「捜しなさい。そうすれば見つかります。」という聖書の中のイエス・キリストの約束が、私にとっての現実となったのです。
森繁 昇

教会のひとこま 花の日訪問

6月第二日曜日は、花の日でした。花の日は、アメリカの教会で、子どもたちに感謝の心を持ってほしいという願いから始まりました。私たちの教会でも、子どもたちと一緒に、近くの交番や消防署へお花を届けて、日頃の感謝の気持ちを表しました。とても喜んでくださり、笑顔で受け取っていただきました。



宝塚栄光教会 牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076
E-mail: info@takara-eikou.com https://www.takara-eikou.com

礼拝 毎週日曜日
10:30～11:40

希望のダイヤル (聖書のお話)
0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。

インターネットでも
配信中



わたしたちは世界平和統一家庭連合(旧・統一協会)、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。

夏は夜の明けるのが早い 早朝の空気を吸いこんで 一日を始める



新しい力の源

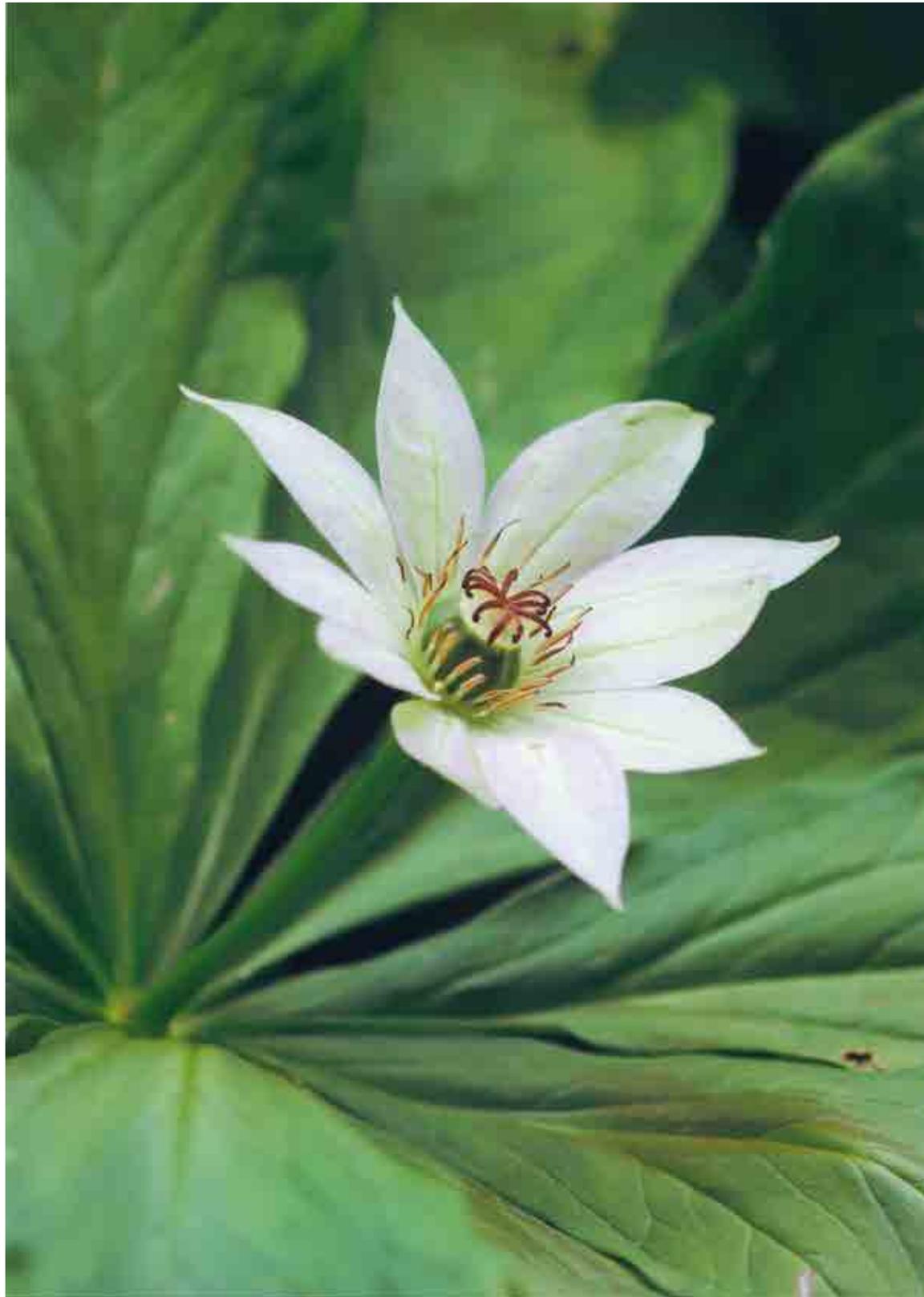
目まぐるしく変化する現代、私たちは忙しい日々を送っています。誰かにある事を依頼すると、「ちょっと忙しいので」と言って断られることがあります。「忙しい」というのはある意味で便利な言葉です。けれども、「忙」という文字は、リッシンベンに「滅亡」の「亡」という字を書きますから、心が滅びるという意味になります。あまり忙しすぎると、心にもゆとりがなくなり、大切なものを失ってしまうことになりかねません。

忙しすぎると、心身ともに疲れてきます。疲れは力の喪失を意味します。疲れやすい私たちに、聖書はこう語ります。「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、驚(わし)のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書40章31節) これは私たちに、非常に励みになる言葉です。主を待ち望む者、つまり、まことの神様を信じ、神様に信頼する者は、疲れることなく、驚が翼を張って大空を飛びかけるように、力強く生きていくことができるという聖書の約束です。

仕事のノルマに追われて心身ともに疲れている人、人間関係のはざままで傷つき悩んでいる人が多い現代社会で、より頼む絶対なる神様を知っている人は、なんと幸いでしょう。

神様は、いつも私たちのことを気にかけていてくださいます。神様は、そのひとり子キリストを十字架におかけになるほど、私たちを愛してくださいました。キリストは、私たちの罪のために十字架にかかれ、血を流して死なれました。本当は罪のために滅びなければならぬ私たちが、救われて、永遠の命を持つ者になるためでした。神様は、私たちをそのように救いたいと願って、いつも私たちに手をさしのべていてくださるのです。

ただ、私たちがキリストの十字架を信じるなら、誰でも罪が赦され、救われます。この救いをいただいて、神様に信頼していくなら、体や心がどんなに弱り果てることがあっても、心強いのです。全能の神様に信頼して、希望をもって力強く上っていく人生を、あなたのために神様が備えていてくださいます。



「キヌガサソウ」－蝶ヶ岳にて－

山の夏は短い
そして 花々が一斉に咲く時でもある
夏空の下 北アルプスの 少し高い山の沢沿いや
雪の残っているところを 辿っていると
キヌガサソウが 群生している姿を見る

キヌガサソウは 他の山野草のように
低地での栽培ができない花である
笠を広げたような 大きな葉っぱの真ん中に
白い大きな花が 一個咲く
花は数日経つと 少しずつ 赤みを帯びてくる
やがて 緑色の実になり 動物の口に入っていく
この花は 日本で発見された 日本固有の高山植物である

名前は 高貴な人が 外出時に差しかけられていた
長い柄の衣笠に ちなんでいる
ハナガサソウの名前もある

この花の姿に 目を高く上げ 耳を傾けて
天の声を聴こうとする姿が見えてくる
教えられる花の姿である

高い山に登れ 良い知らせをシオンに伝える者よ
力を振るって声をあげよ

イザヤ40章(聖書)